わたしを束ねないで

新川　和江

わたしを束ねないで

わたしを束ねないで
あらせいとうの花のように
白い葱のように
束ねないでください　①わたしは稲穂
秋　大地が胸を焦がす
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで
②標本箱の昆虫のように
高原からきた絵葉書のように
止めないでください　わたしは羽撃き
こやみなく空のひろさをかいさぐっている
目には見えないつばさの音

わたしを注がないで
日常性に薄められた牛乳のように
ぬるい酒のように
注がないでください　わたしは海
夜　とほうもなく満ちてくる
苦い潮　③ふちのない水

④わたしを名付けないで
娘という名　妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
坐りきりにさせないでください　わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで
，や・いくつかの段落
そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のようには
こまめにけりをつけないでください　わたしは終りのない文章
川と同じに
はてしなく流れていく　拡がっていく　⑤一行の詩

確認テスト

詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「わたしは稲穂」に用いられている表現技法を二つ選びなさい。

ア 直喩（ちょくゆ）　イ 隠喩（いんゆ）　ウ 体言止め　エ 倒置（とうち）

［　　・　　］

(2) ——線②「標本箱の昆虫」と似たようなものとして挙げられているものを選びなさい。

ア 高原からきた絵葉書　イ 羽撃き　ウ つばさの音

［　　］

(3) ——線③「ふちのない水」と対照的なものとして挙げられているものを選びなさい。

ア ぬるい酒　イ 海　ウ 苦い潮

［　　］

(4) ——線④「わたしを名付けないで」とあるが、「わたし」が名付けてほしくないと願っているものとして適当ではないものを選びなさい。

ア 娘　イ 妻　ウ 母　エ 風

［　　］

(5) ——線⑤「一行の詩」はどのようなものとして挙げられているか。適当なものを選びなさい。

ア 区切られたもの　イ おしまいがあるもの
ウ けりがつけられているもの　エ 拡がっていくもの

［　　］

(6) この詩の主題として適当なものを選びなさい。

ア 豊かな自然の中で生きていくことへのあこがれ。
イ 豊かな生命力をもつものたちへのあこがれ。
ウ 何ものにも縛（しば）られず自分らしく生きたいという思い。
エ 日常を実りあるものにしていきたいという思い。

［　　］